

「角膜移植に理解を」 府立医大教授が講演

角膜移植への理解を深めてもらう「アイバンクシンポジウム」（読売新聞大阪本社後援）が5日、上京区の府立医科大付属病院図書館ホールで開かれ、約280人が聴き入った。
この日は、府立医科大眼

科学教室の木下茂教授の写



真Ⅱが「見るといふこと」と題して講演。網膜の中

心にある黄斑が腫れたり、縮んだりする加齢黄斑変性などの病気を説明した。眼球の表面にある角膜の提供については、「目に持病を持つ人は提供できないと勘違いしている人が多いが、部位が違えば移植に役立てる」と話し、約3000人が待つ角膜移植への理解を訴えた。